

校区の特徴

本校学区佐川町は、高知市の西に位置し、自然に恵まれた文教の町である。佐川町は古くから土佐藩家老・深尾氏一万石の城下町として栄え、佐川の風土と文化が生んだ「文教人」は今なお、町の人々の誇りとして息づいている。

悠久の歴史の中で培われてきた文化意識は、佐川の人々の心の中に綿々と引き継がれており、学校教育に対しても非常に関心が高い。保護者をはじめ、地域の方々からは常に温かい支援が得られ、本校の教育方針に対しては深い理解を示してくれている。

安永元年(1772年)、ときの領主六代領主 深尾重茂澄が家塾「名教館」を創設。後に享和二年(1802年)七代繁寛がこれを拡充して郷校とした。この「名教館」は明治維新に再開して多数の先覚者を輩出している。現存している「名教館」はこの郷校の玄関部分が、1887年に佐川尋常小学校に移築されたものであり、現在上町地区で、輝かしい歴史の後を静かに語っている。

この伝統の「名教館」が佐川中学校の源泉となっている。

校章



校章の意味

明治20年組合立佐川高等小学校創立の時、High schoolのHをとって校章とした。昭和16年英字を廃して、深尾氏紋章梅鉢に文の字を配した時期もあった。現在の校章は、昭和22年度新制中学校発足と共に、高小時代のHをペン先の中にとり入れ、中の字を配して図案化したものである。**H**に秘められた理想は、
head (知恵・頭) hand (技能・腕) heart (心)
health (健康)の4Hである。

校訓

『進徳修業』

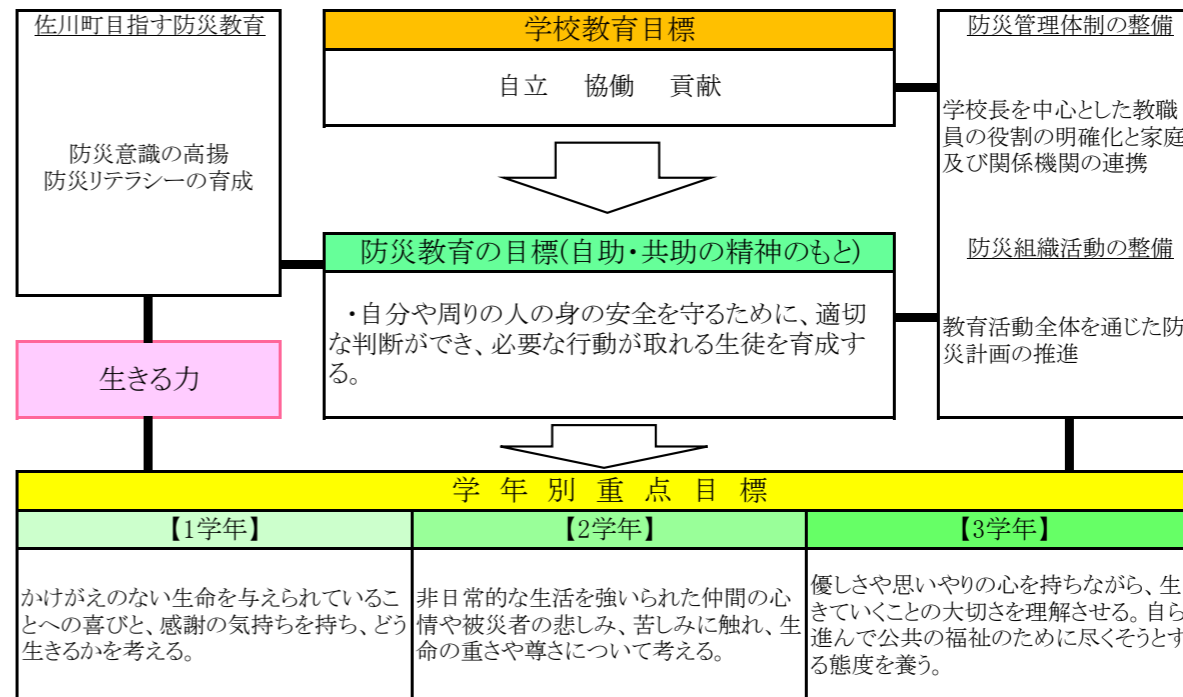
「生涯を通して豊かな思いやりのあるやさしい心を持ち、学問に精進したゆみなく自己の向上につとめなさい。」という意味である。



これは、佐川町出身で世界的に有名な植物学者牧野富太郎博士が本校に書き残したものを、昭和59年1月創立百周年記念行事の教育環境整備の一つとして、保護者を中心とする町民及び町当局の総力によって、佐川中学校の表玄関に建立された記念碑の碑文である。この『進徳修業』の言葉を校訓とし、本校教育の指針としている。



防災安全



学校の沿革

- 昭和 22 年 学校改革により佐川町外2ヶ村組合立佐川中学校と改称
- 29 町村合併により佐川町立佐川中学校となる
- 30 北舎4教室増設
- 39 完全学校給食開始
- 40 屋内体育館落成
- 42 旧制中学85周年・佐川高等小学校80周年・新制中学20周年記念式典を行う
- 46 新校舎落成
- 47 給食調理場落成
- 48 自転車置場落成、美術・技術教室落成
- 49 プール落成
- 55 自校給食を廃止し、給食センター開設、土俵場新設
- 58 柔剣道場落成
- 59 創立100周年記念式典を行う
- 60 文部省指定生徒指導総合推進校指定2年間
- 平成 3 年 北校舎大規模改修
- 4 南校舎大規模改修
- 5 教育計画研究指定発表会
- 6 高知県福祉活動推進校指定3年間
- 8 文部省指定道徳推進実施研究協力校指定2年間
- 16 局地豪雨により校舎体育館床上浸水(9月16日)
- 18 佐川町教育委員会指定研究発表会
- 21 新校舎落成(8月8日)、佐川町教育委員会指定研究発表会、県図書館教育発表会
- 24 佐川町教育委員会研究指定校
- 25 高知県教育委員会ことばの力育成プロジェクト推進事業(重点校) 指定～27年度
- 26 平成26年度 高知県教育委員会志育成型学校活性化事業指定～27年度
- 27 高知県教育委員会指定事業研究発表 ことばの力育成プロジェクト推進事業(重点校)/志育成型学校活性化事業
- 28 高知県教育委員会指定 探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業(学校図書館活用型)
- 29 高知県教育委員会指定 未来にかがやく子ども育成型学校連携事業
- 30 佐川町立黒岩中学校と統合する。